

## [019]九州大学産学連携センター一年報 : 19

<https://doi.org/10.15017/1263081>

---

出版情報 : 九州大学産学連携センター一年報. 19, 2013-11-01. 九州大学産学連携センター  
バージョン :  
権利関係 :



## 新しい百年と産学連携センター

九州大学産学連携センター長 安浦 寛人

平成 24 年度は、国立大学法人九州大学にとって創立 101 年目にあたり、新しい世紀の初年度でした。東日本大震災の影響で延期していた創立 100 周年記念式典も平成 24 年 5 月に無事挙行いたしました。今回、100 周年を迎えるにあたり、「自律的に改革を続け教育の質を国際的に保証するとともに常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究教育拠点となる」という今後の基本理念を定め、9 つの行動計画の最初に「社会の課題に応える大学」を謳っております。

産学連携センターは、この「社会の課題に応える大学」という行動計画の実現の先頭に立って、幅広い活動を展開しております。本学の産学連携および社会連携の実務の窓口となっている知的財産本部の活動の中核として、リエゾン部門を中心に活動しており、多くの産官学連携及び自治体等との連携プロジェクトを支えています。また、プロジェクト部門やデザイン総合部門を中心に、分野横断型の先端研究を展開し、センサー技術、半導体技術、新材料技術、表示デバイス、建築デザイン等の研究を進めています。さらに、産学連携による 5 つの連携部門も設置して幅広い社会連携を実現しています。この連携部門の実績をさらに発展させ、全学の部局に配置できる共同研究部門制度も確立し、新しい形態の産（官）学連携の枠組を実現しました。連携部門や共同研究部門の制度を利用して、九州大学が核となって複数の企業が連携する産学産連携の事例も複数出てきました。

また、本センターは、次世代を担う起業家養成の全学教育組織であるロバート・ファン／アントレプレナーシップセンター（QREC）や学生・社会人向けの公開講座である「地域政策デザイナー養成講座」など新しい教育事業においても中核的役割を果たしております。

人事面では、平成 25 年 3 月末をもって、デザイン総合部門で数々のユニークな活動をして参りました湯本長伯教授が定年退職し、4 月より日本大学へ移りました。

平成 22 年 3 月 11 日の東日本大震災とそれに引き続く福島第一原子力発電所の事故で、日本の社会状況は大きく変わりました。産学連携活動を取り巻く状況も、今後も変わって行くと考えられます。九州大学は、「危機や不況時にこそ次の技術を」と新しいテーマに果敢に取り組む産業界との連携や政府の経済復興対策を活用した新しい産学連携プロジェクトを企画するなど、危機の中での大学の役割を意識しつつ、多様な活動を積極的に進めていきます。グローバル化の流れに沿った国際的な産学連携も含め「社会の課題に応える大学」としての役割を果たしたいと考えており、産学連携センターはその先頭に立って活動して参ります。今後の九州大学の産官学連携活動が発展を続けるためには、学内外の皆様方からの継続的なご支援が必要です。今後も引き続きご指導・ご鞭撻・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2013 年 5 月